

川の宝石「カワセミ翡翠」 2009

さて5月に入ってからの私のメールで、カワセミを見たと報告していましたが、その写真はお送りしていませんでした。

昨年・一昨年にカワセミの報告をしたときに、「どこへ行けば見られるのか」「どんな場所に止まっているのか」という質問メールを多くいただきました。そこで、カワセミがただ居たというだけの写真ではご満足いただけないだろうと思い、今までの質問に答える形の撮影を続けていました。そこで、とりあえず5月分のまとめをレポートしておきたいと思います。



私がカワセミに気が付くのは、こんな風に呑川の水面上をサーッと通り過ぎていくときです。

背中のコバルトブルーが美しく、すぐカワセミと判ります。

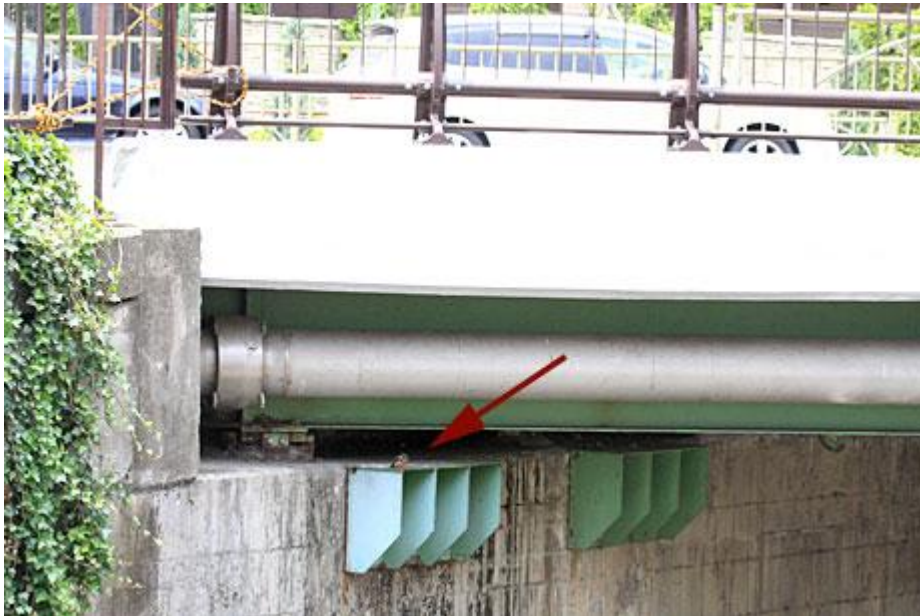
こんな風にカワセミの姿を見たのは、今年（2009年）の5月では、池上の「養源寺橋」から

新幹線直下の「境橋」の間です。

かなり広い範囲をテリトリーとして動いているように思います。



ここは「北之橋」付近です。
意外と多く止まっているのは、護岸の上、フェンスの下の位置です。
カワセミの左にはスズメが見えています。
実はスズメがいる場所に、思いのほかカワセミがいるのを何回も発見しました。



ここは呑川と第二京浜国道の交わる、「池上橋」の下流側です。
橋の橋脚の構造物の上にチョンと止まっています。
「池上橋」～「養源寺橋」間は、だいたいこんな場所に止まっているのを見つけました。
そしてこれは、池上地域ではまだ2回ほどの観察なので、まだ確たることは言えないのですが、
この地域では引き潮時によく現れるようです。
引き潮の時は、魚の遡上は「池上橋」を越えて行くのは少なく、魚は池上地域にとどまっ
て

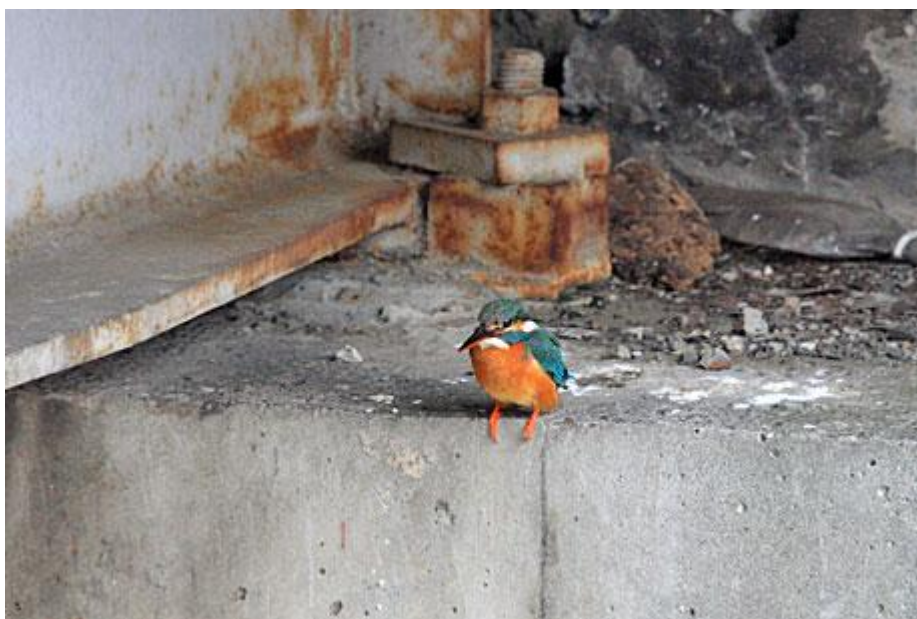
いるからなのかもしれません。



「池上橋」直下のカワセミを、気づかれないように橋の欄干側からそっとのぞき込んで撮影した

のが、この写真です。

顔や背中中の緑もきれいですが、お腹の鮮やかな赤い色はとても美しいものです。



同じように、この場所は「長栄橋」の下です。

橋の下は河床と違って、人間になかなか気が付かれないのが、好まれるのかも知れません。



橋の下と違って、とても見やすく、撮影をしやすいのは、川に降りるためのステップです。ただこういう場所は、人間と正面から対峙しますし、指でもさそうものならすぐ気が付かれて飛んでいってしまいますし、レンズを向けても同じようにすぐ逃げられてしまうので、実際にはなかなか撮れないのです。



岩の上に止まっていると、呑川の川面が写って、いかにも川らしく、私はこの瞬間を待ち続けます。ただ、フェンスから身を乗り出して、川をのぞき込むようにして撮影しなければならず、だいたいは、カワセミがそれに気が付いて逃げてしまい、シャッターを押そうとするときにはいなくなってしまう。そんな中でやっと撮影できたのが、これです。



気が付かれないように、背後に回って撮影したので、正面からではありませんが、カワセミの背中のコバルトブルーは実に鮮やかで、まさにこの鳥が「川の宝石」と言われるゆえんです。

背中の写真ばかりなので、違う場所（八幡橋上流側）ですが、なんとか横方向におそろおそろ
回ってみました。



これでようやく背中のコバルトブルーと、お腹のオレンジ色が同時に表現できました。その代わり、呑川の水面が写らなかったのは残念です。

さらに私が表現したかったこと、それは呑川には多くの魚がやってきていて、その魚がいるからこそ
カワセミがやって来ていることの証しです。



カワセミのくちばしには、ハッキリと魚がくわえられています。

その行動を見ると、まだ自分が食べるためのようです。

去年の例では、7月～8月にカワセミの活動はピークを迎え、捕った魚をメスにプレゼントする

姿を見ることが出来ました。

呑川では、9月末位までカワセミを見ることが出来ます。

これから夏に向かって、どんな姿を見せてくれるか楽しみです。

—photo & essay by—

呑川の会 高橋 光夫